

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703105		
法人名	有限会社 健康サポートセンター		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地 (電話番号)	〒807-0876 福岡県北九州市八幡西区浅川1丁目25-6 (電話) 093-695-1315		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価確定日	平成21年 9月 4日

【情報提供票より】(平成21年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤(専任9人 兼務3人) 非常勤 5人 常勤換算 9,8人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	築 4年
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 29,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (93,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要(平成21年8月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85,2 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・石橋クリニック ・東筑病院 ・河本整形外科医院 ・小倉蒲生病院 ・加来ひろし歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北九州学術研究都市を結ぶライン上で利便性の高い一角に、有料老人ホーム、デイサービス併設のグループホームひだまりがある。落ち着いた雰囲気のある二階建て2ユニットの周りは、利用者と職員が、一緒に育てた花壇と収穫真っ盛りのトマトや収穫が待ち遠しいサツマ芋が畑で栽培されている。「自分らしく、安心して暮らしていただける家を目指す」という理念を掲げ常勤看護師が、利用者の一人ひとりの健康状態をチェックし、管理栄養士が作った献立を料理上手な職員が調理して、利用者のほとんどが完食されている光景は楽しそうである。家族のホーム来訪は頻繁で、家族と職員の関係は信頼関係ができていく。地域との交流は年々、活発化し、特に小学生との体験学習を通じた交流は利用者にとっての楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回は「地域との付き合い」、「運営推進会議を生かした取り組み」、「思いや意向の把握」、「チームで作る利用者本位の介護計画」、「災害対策」の5件が課題であったが全員で一年間努力した結果4件が改善されている。今回は「市町村との連携」、「同業者との交流を通じた向上」、「非常時に備えた訓練の充実と非常食、飲料水、毛布などの備蓄」が課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で話し合い、管理者が取りまとめて作成している。管理者や職員は評価の意義を理解し、評価結果表を回覧し、改善計画を立てて、取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は利用者家族、自治会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が参加して活発な意見交換会になっている。特に家族の参加が多く、内容が充実した会議になっている。また、参加者の意見は、ホームで検討し、反映できるように工夫をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱を玄関に設置し、内外の苦情窓口を掲示しているが、投函はほとんどない。運営推進会議に7~8名の家族が参加し、意見を出し合っているが本音の部分はなかなか出てこない。運営推進会議終了後、家族だけで話し合う家族会を開き、出された意見を家族会の要望として、ホームに提出される体制と、出された要望をホーム運営に反映していく工夫を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) クリスマス会や誕生会等に、市民センターからボランティアの方が来訪したり、小学生の福祉学習会で利用者や交流をしたり、民生委員、福祉協力員によるホーム見学会など、地域からの来訪が頻繁である。今後は町内会に加入し、地域の行事にも利用者と職員が積極的に参加して、交流を深め、信頼関係を構築していくことが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中で、「自分らしく安心して暮らしていただける家を目指す」という理念を掲げ、地域密着型サービスとしての福祉拠点を目指すことを理念の中で謳っている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	玄関に理念を掲示し、職員は名札の裏に理念を書き込み、毎朝唱和し、日々理念の確認をすることによって、理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	小学生の体験学習、民生委員・福祉協力員の見学などの受け入れ、ホームのクリスマス会や夏祭りなどの行事に地域の方に参加して頂いたり、2ヶ月に1度、地域の市民センターのボランティアによる手品・ハーモニカ演奏などが行われ、利用者の楽しみとなっている。		町内会に加入して、盆踊りや文化祭など地域の行事にも利用者と職員が積極的に参加し、交流を深め、信頼関係を築いていくことが望まれる。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	管理者と職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、日々改善に向けて取り組んでいる。		職員一人ひとりが分担して自己評価の作成に関わり、評価に対する意識付けをすることによって、サービスの質の向上に繋げていくことを期待したい。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は、2ヶ月に1回、利用者家族、自治会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者などが参加して行われ、活発な意見交換会になっている。特に、家族の参加が多く、家族の思いも伝わる充実した会議となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
6	9	市町村との連携	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加があり、情報交換は行われている。	○	市町村担当窓口にも積極的に行き来する機会を作り、連携を深めていくことや、市民センター等で行われる介護相談や家族の相談等に、相談担当や講師として参加し、行政と協働していくことが望まれる。
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者と職員は、権利擁護に関する研修に参加し、制度を理解し、パンフレットや説明書を用意し、利用者や家族にいつでも説明できる体制で、支援に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、担当職員が利用者一人ひとりに個別の家族通信を作成し、利用者の日々の状態や暮らしぶりを伝えている。金銭管理に関しては、預かり張に家族のサインを頂いている。		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱に、意見・苦情はなかなか入らないが、家族の来訪が多いので、来訪時に職員が意見・要望を聞き取ったり、また、運営推進会議の中で家族から出された意見を運営に反映させている。		
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	担当制をとっているため、利用者との馴染みの関係はしっかり出来ている。また、現在は、異動や離職を必要最小限に抑える努力を、管理者を中心に全職員で行っている。		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	職員の採用にあたっては、性別、年齢などを理由に排除していない。また、休憩室、ロッカーを設け、昼休みがとれるよう、職場環境も整え、職員が生き生きと働けるよう配慮している。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる</p>	人権教育に関する外部研修への参加を促したり、法人内の社内研修、ホーム独自の研修等を通して、人権に関する教育に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	社内の年間計画に基づき研修を行っている。また、外部研修に対しても参加を促している。外部の研修受講者は、カンファレンス会議時に報告を行い、知識、情報の共有に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと、相互訪問などを行い、情報交換に努めている。	○	グループホーム協議会に加入し、技術や情報の交流を図り、職員間の相互訪問などを実施されることを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、ホームの見学、体験入居を行い、職員と利用者の馴染みの関係が出来、本人、家族が、安心して納得したうえでサービスを利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、食事作り、おやつ作り、野菜作り、買い物など日々の暮らしの中で、人生の先輩である利用者からいろいろなることを学びながら共に過ごしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のつづきや、ちょっとしたサインを見逃さず、一人ひとりの思いや意向に寄り添い、ゆっくりと会話を積み重ねながら、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者や職員は、利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、本人と家族の意向に基づいた介護計画を、関係者の話し合いのもと作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月毎に定期的に見直しを行い、利用者の状態の変化に応じてその都度対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	利用者の通院同行、看取りの支援、看護師常駐による健康管理、外食、ドライブなど、利用者、家族の要望に応じたサービスを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	利用者一人ひとりの希望を大切に、かかりつけ医の受診支援をしている。常勤の看護師による健康管理、また、月に一度は健康情報提供書を、かかりつけ医に提出しチェックを受けるなど、利用者、家族が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期に対する対応について、家族、医師、看護師、職員を交えた話し合いを行い、全員で方針を共有している。現在、一人の利用者を看取りに取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、言葉掛けや対応に気をつけている。また、記録などの個人情報ファイルの取り扱いにも気をつけている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	利用者一人ひとりのその日の体調、状態と希望に合わせて、買い物、散歩、畑仕事などを行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	利用者と職員は、一緒に食事作りを行い、同じテーブルで楽しく会話しながら一緒に食事をし、配膳、下膳、お皿を洗う人、テーブルを拭く人等、分担しながら楽しく行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的には、週3回が入浴日となっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、夜間の入浴にも対応するなど、入浴を楽しめるよう支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	食事作り、テーブル拭き、皿洗い、掃除、洗濯物干し、取り入れ、たたみ、メダカの餌やり、畑仕事、イチゴ・トマト・キュウリ・サツマイモの収穫など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	利用者一人ひとりの、その日の心身の状態や希望にそって、外出、買い物、ドライブなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、利用者一人ひとりの癖や傾向を把握し、見守りに努め、日中は鍵をかけないケアを実践している。しかし、安全確保のために、内ドアにはベル、センサーを設置している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	定期的に消防訓練を行い、夜間を想定した訓練を行っている。		地域の人々の協力を得られるよう働きかけ、災害時に備えて、飲料水、非常食、毛布の備蓄などが望まれる。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養士によるカロリー計算された献立に基づき、一日の摂取量、水分量を記録し、利用者一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ホームの玄関前に椅子を並べて座り、おしゃべりをしながら「今日は風が通って涼しいねー」と口々に話す利用者の姿が見られた。また、玄関内にはメダカが泳ぐ金魚鉢が置かれ、ホームの壁には、利用者手作りの季節感溢れる折り紙が飾られ、生活感、季節感を採り入れた居心地のよい共用空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	仏壇、鏡台、家族の写真など、使い慣れたものや好みものを持ち込み、利用者が居心地よく暮らせるよう支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			